

福井工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	英語Ⅳ
科目基礎情報						
科目番号	0055		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	環境都市工学科		対象学年	4		
開設期	通年		週時間数	前期:2 後期:2		
教科書/教材	"STEP-UP SKILLS FOR THE TOEIC LISTENING AND READING TEST: Level 3"(朝日出版社), "ENGLISH FOR BUSINESS COMMUNICATION"(南雲堂), 『データベース4500:5th Edition』(桐原書店), Really English (eラーニング教材)					
担当教員	村 香織, 藤田 卓郎					
到達目標						
(1) 高等学校で学習する程度の英文法、語法の表現を習得し、TOEICテストへ向けての準備をすること。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1 聴解力	辞書や文法書等を活用しながら、与えられた英文を読み、ほとんどの内容について理解することができる。		辞書や文法書等を活用しながら、与えられた英文を読み、その内容について大体理解することができる。		辞書や文法書等を活用しながら、与えられた英文を読んでも、その内容をほとんど理解することができていない。	
評価項目2 英文読解力	辞書や文法書等を活用しながら、与えられた話題について、まとまりのある内容を適切な英語で表現することができる。		辞書や文法書等を活用しながら、与えられた話題について、まとまりのある内容を一通り英語で表現することができる。		辞書や文法書等を活用しても、与えられた話題についてほとんど表現することができていない。	
評価項目3 英語表現力	与えられた課題を期限内に取り組み、その内容について8割以上の習得が見られる。		与えられた課題に取り組み、その内容について6割以上の習得が見られる。		与えられた課題を期限内に取り組めないものが多く、内容の習得程度も6割未満である。	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育到達度目標 RC1 JABEE JC1						
教育方法等						
概要	(1) 高等学校で学習する程度の英文法、語法の表現を習得し、TOEICテストへ向けての準備をすること。					
授業の進め方・方法	授業は家庭学習を前提とし、四技能（スピーキング・ライティング・リスニング・リーディング）および文法・語彙を習得するための練習を多く取り入れ、言語知識の取得と運用能力の向上を目指す。また、中・長期に渡る課題を設定し、たりすることで学生の家庭学習を促す。					
注意点	評価方法：100点満点で評価する。成績は、定期試験（50％）、小テスト・単語テスト・課題（40％）主体的取り組み（10％）で評価する。 また、eラーニング課題を課す。Eラーニング課題を期日までに終了できない場合は、原則不合格とする。 評価基準：100点満点中60点以上で合格とする。					
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☒ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	Unit 1 Eating Out 文法：動詞（1）			
		2週	Unit 1 Eating Out 文法：動詞（1）			
		3週	Unit 2 Travel 文法：動詞（2）			
		4週	Unit 2 Travel 文法：動詞（2）			
		5週	Unit 3 Amusement 文法：品詞			
		6週	Unit 3 Amusement 文法：品詞			
		7週	Unit 4 Meetings 文法：分詞			
		8週	Unit 4 Meetings 文法：分詞			
	2ndQ	9週	前期中間試験			
		10週	Unit 5 Personnel 文法：不定詞と動名詞（1）&（2）			
		11週	Unit 6 Shopping 文法：不定詞と動名詞（1）&（2）			
		12週	Unit 7 Advertisement 文法：仮定法			
		13週	Unit 7 Advertisement 文法：仮定法			
		14週	Unit 5, 6, 7 まとめ			
		15週	前期期末試験			
		16週	前期期末試験返却・解説			
後期	3rdQ	1週	Unit 8 Daily Life 文法：受動態			
		2週	Unit 8 Daily Life 文法：受動態			
		3週	Unit 9 Office Work 文法：代名詞			
		4週	Unit 9 Office Work 文法：代名詞			
		5週	Unit 10 Business 文法：数量詞			
		6週	Unit 10 Business 文法：数量詞			
		7週	Unit 8, 9, 10 まとめ			
		8週	後期中間試験			

4thQ	9週	Unit 11 Traffic 文法：接続詞	
	10週	Unit 11 Traffic 文法：接続詞	
	11週	Unit 12 Finance and Banking 文法：前置詞	
	12週	Unit 12 Finance and Banking 文法：前置詞	
	13週	Unit 13 Media 文法：語彙	
	14週	Unit 13 Media 文法：語彙	
	15週	Unit 11, 12, 13 まとめ	
	16週	後期期末試験返却・解説	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	3	
			明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	3	
			中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	3	
			中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	3	
		英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	3	
			日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	3	
			説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	3	
			平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	3	
			日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	3	
			母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	3	
			実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト)を適切に用いることができる。	3	
		英語運用能力向上のための学習	自分の専門分野などの予備知識のある内容や関心のある事柄に関する報告や対話などを毎分120語程度の速度で聞いて、概要を把握し、情報を聞き取ることができる。	3	
			英語でのディスカッション(必要に応じてディベート)を想定して、教室内でのやり取りや教室外での日常的な質問や応答などができる。	3	
			英語でディスカッション(必要に応じてディベート)を行うため、学生自ら準備活動や情報収集を行い、主体的な態度で行動できる。	3	
			母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、教室内外で英語で円滑なコミュニケーションをとることができる。	3	
			関心のあるトピックについて、200語程度の文章をパラグラフライティングなど論理的文章の構成に留意して書くことができる。	3	
			関心のあるトピックや自分の専門分野のプレゼン等にもつながる平易な英語での口頭発表や、内容に関する簡単な質問や応答などのやりとりができる。	3	
			関心のあるトピックや自分の専門分野に関する論文やマニュアルなどの概要を把握し、必要な情報を読み取ることができる。	3	
			英文資料を、自分の専門分野に関する論文の英文アブストラクトや口頭発表用の資料等の作成にもつながるよう、英文テクニカルライティングにおける基礎的な語彙や表現を使って書くことができる。	3	
			実際の場面や目的に応じて、効果的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト、代用表現、聞き返しなど)を適切に用いることができる。	3	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	3	
			他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	3	
			他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	3	
			日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	3	
			円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	3	
			書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	3	
			収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	3	
			収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	3	
			情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について自己責任が発生することを知っている。	3	

				情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	3	
				目的や対象者に応じて適切なツールや手法を用いて正しく情報発信(プレゼンテーション)できる。	3	
評価割合						
		試験	小テスト・レポート等	主体的取り組み	合計	
総合評価割合		50	40	10	100	
基礎的能力		50	40	10	100	
専門的能力		0	0	0	0	
分野横断的能力		0	0	0	0	